

目的・目標

- 盲ろう児の生きる力を育み、将来的な社会参加・自立の支援をすることを目的に、以下を本事業の目標とする。
- 地方自治体における教職員の専門性向上：オンデマンド型オンライン研修、理解啓発オンラインセミナーの実施
 - 教職員・関係者が連携できる仕組みの提供

取組概要(研究テーマ：A 盲ろう児を担当する教師に対する研修の在り方)

盲ろう児の教育・支援に精通した専門家と協議を行い、以下の3つのプログラムを実施した。

1 オンデマンド型オンライン研修

盲ろう児教育に携わる教職員や関係者を対象に、学習支援システム「志」上で「盲ろう児教育に関する公開講座」を開講し、盲ろうに関する概論や疑似体験、ICT機器の利活用等の動画コンテンツを複数公開した。

2 教職員・関係者のカンファレンス

「志」のディスカッション機能を活用して、盲ろう児教育に携わる教職員や関係者が無料で参加できる協議の場を提供。さらに、地方自治体においても盲ろう児者一人ひとりに合わせた情報提供や教職員への情報提供ができるよう、協力校を募集し、コンサルテーション・出張研修を実施した(愛媛県、福岡県、愛知県内の3校)。

3 理解啓発オンラインセミナー

オンライン会議サービス(zoom)を使い、「アッシャー症候群をはじめとした後天的に盲ろうになっていく生徒に対する評価と指導」をテーマに、オンラインセミナーを実施。盲ろう教育の先駆的存在であるパーキンス盲学校から提供された動画や、専門家による講演等を配信した。

講義名
1. 盲ろう者概論
2. ある盲ろう者の手紙から
3. 盲ろう予備群としてのアッシャー症候群が疑われる児童生徒に対する指導
4. 盲ろう児者の支援機器利用
5. 盲ろう疑似体験演習
6. カンファレンス ・障がい者が社会参加する際の必要要件 ・盲ろう者の情報機器利活用と映画鑑賞
7. カンファレンス ・音楽バンド活動を通した盲ろう者の社会参加と啓発
8. 筆記通訳入門
9. 盲ろう者の盲導犬活用

▲公開講座の講義リスト

理解啓発オンラインセミナーのチラシ▶



本事業
の成果

1. オンデマンド型オンライン研修は、全国の特別支援学校教員および教育委員会の職員等から40名の受講申込があった。受講後に実施したアンケート調査では、本講座の内容が分かりやすく、盲ろうの児童生徒を支援する現場において有用であるとの評価が多数寄せられ、非常に高い満足度を得た。

▶盲ろう児教育に関する公開講座の受講者アンケート結果
(※ 1=「全く当てはまらない」、5=「非常に当てはまる」の5段階評価)

アンケート項目	平均値※	標準偏差
この講座を受けて、知識が深まり、教員としての能力が高まったと感じる。	4.5	0.5
この講座で学んだことで、教員の仕事に自信がついた。	4.0	0.0
講座の中で教育現場で参考になる情報が提供され、有益だと感じた。	4.8	0.3

2. 愛媛、福岡、愛知の3校で、コンサルテーション・出張研修を実施した。授業観察を通じて生徒の学習環境の適応状況を確認し、担当教員へのコンサルテーションを行いながら学習支援方法や生徒のライフスキル習得に関する指導・助言を提供した。さらに、盲ろう教育に関する講義を実施し、専門知識の向上を図った。実施後のアンケート調査では、盲ろう教育に関する情報の一元化の必要性、卒業後の進路指導、および盲ろう児やその家族とのコミュニケーションが課題となっていることが明らかになった。
3. 令和7年2月には、本事業の委員およびパーキンス盲学校の協力のもと、理解啓発オンラインセミナーを開催した(テーマ:「アッシャー症候群をはじめとした後天的に盲ろうになっていく生徒に対する評価と指導」)。本セミナーは、教職員を対象とし、後天的に盲ろうになっていく児童生徒への心的支援や予防的措置支援の情報共有を目的とした。本セミナーには、教職員、教育委員会職員、保護者等、計30名が参加した。セミナー後のアンケート調査では、盲ろう児者の支援について新たな情報を得られたと高く評価された。

☆愛媛大学盲ろう児教育プロジェクトHP <https://ehimeuniv-cie.jp/morokyoiku/>

課題と
今後の
展望

本事業の実施により、以下の課題が明らかになった。

- **オンデマンド型オンライン研修や理解啓発オンラインセミナーの参加促進:** オンライン型の研修やセミナーは全国各地に情報を届ける利点があり、受講者からは高評価だった。しかし、申し込み後の視聴率や参加数が低迷する傾向があった。このため、視聴を促すための工夫や、より参加しやすい環境の整備が求められる。
- **コンサルテーション・出張研修の深化:** 盲ろう児者の指導に携わる教職員・関係者のカンファレンスの1つとしてコンサルテーションや出張研修を実施したが、一度だけでの訪問では、十分な評価が行われられない可能性があることが委員から指摘された。
- **さらなる情報提供の必要性:** 盲ろう教育に携わる教職員の専門性を向上のための各研修等は高評価を得たが、一方で、アンケート結果等から専門的な情報の入手先が限られている現状が浮き彫りになった。